

写真にみる 日本図書館史

新藤透 編著



解説 近代日本図書館史を見通す

新藤 透

1. 明治期 近代図書館の勃興

1.1 前近代の「文庫」と近現代の「図書館」

図書館という単語は明治初年に library [英語] や bibliothèque [フランス語] の翻訳語として新しく生まれた。つまりわが国の図書館の直接のルーツは、欧米諸国に求められるとみてよい。それは幕末維新期に江戸幕府や明治新政府が頻繁に欧米に使節団を派遣し、若手官僚らに現地の「先進的」な社会を見聞させ、かの地の「進んだ」制度を積極的に取り入れようとしたからである。特に維新直後の新政府はその傾向が顕著であった。図書館はそういった大きな社会的な流れの中で、本邦にもたらされたのである。

しかし近世以前、つまり江戸時代までに現代の図書館のような施設がまったく存在していなかったかという点、決してそのようなことはない。「文庫」、「書物蔵」と呼ばれた施設が今日の図書館と近い働きをしていたことは夙に指摘されている。例えば幕末の1849年（嘉永2）に三河国吉田城下（現・愛知県豊橋市）に設立された羽田八幡宮文庫は、大名から町人、農民から寄付を広く募って設立されており、閲覧も身分を問わず地元の者であれば自由に蔵書を読むことができた。このように現代の図書館にかなり近い活動をしていた文庫も存在しており、安易に明治元年（1868）に壁をつくるのではなく、前近代の文庫から近現代の図書館へと、影響を与えている事例に注目することも重要である。

1.2 近代図書館第1号

欧米からの影響で誕生した近代的な図書館の第1号は、1872年（明

凡例

1. 本書の内容

本書は、写真として残された明治以降の日本図書館史に関する出来事を記録する事典である。併せて各時代への理解を深めるために各章に年表を収録した。

なお、過去の出来事などに用いられている差別的な呼称などをそのまま掲載した箇所もある。

2. 構成

時代背景によってその流れは大きく左右される面があるため、第1章～第5章（第1章 明治期 近代図書館の勃興、第2章 大正期 大正デモクラシーと関東大震災、第3章 昭和前期 「昭和ファシズム」と戦争の時代、第4章 昭和後期 戦災からの復興と図書館の躍進、第5章 平成・令和 伝統から革新へ）に分け、掲載した。

3. 収録対象

(1) 収録期間

1872年（明治5年）～2024年（令和6年）までの153年間。

(2) 収録対象・件数

①写真

基本的に上記期間の報道写真、報道記事より図書館、図書館に関わりのある人物、事件・災害などに関する119点の写真（記事の画像含む）とその解説を収録した。

②年表

図書館政策、制度、システム、活動など重要な出来事365件を収録した。

4. 排列

(1) 年表

各項目を年月日順に排列した。日が不明な場合は各月の終わりに、月日も不明または確定できないものは「この年」として、おおよその年か

分からない場合は「この頃」として、各年の末尾に置いた。

(2) 写真と解説

撮影された年月日順に排列した。日が不明な場合は年月までを掲載した。

5. 記載事項

(1) 年表

内容を簡潔に表示した見出し、本文記事で構成した。写真を掲載している記事に関しては参照として収録ページを示した。

(2) 写真と解説

見出し、撮影年月日、解説、写真、写真キャプションで構成した。

6. 分野別索引

(1) 年表の見出し項目を分野別にまとめた。

(2) 分野構成は、索引の先頭に「分野別索引目次」として示した。

(3) 分野の中は年月日順に排列し、年表記事の所在は、見出しと年月日で示した。

7. 事項名索引

(1) 年表記事に現われる用語、テーマ、人名、団体名などを事項名とし、読みの五十音順に排列した。

(2) 各事項の中は年月日順に排列し、年表記事の所在は、本文見出しと年月日で示した。

8. 典拠・参考資料

写真提供：毎日新聞社

『日本の図書館・博物館・美術館史事典—トピックス 1871-2023』

日外アソシエーツ 2024.5

目次

解説 近代日本図書館史を見通す	1
凡例	12
第1章 明治期近代図書館の勃興	19
年表 1872年(明治5年)～1911年(明治44年)	20
写真と解説	35
書籍館(しょじゃくかん)設立	35
東京府書籍館、東京図書館に改称	36
帝国図書館創設	37
東京帝国大学附属図書館に改称	38
京都帝国大学附属図書館創立	39
大橋図書館開館	40
私立山形図書館開館	41
大阪図書館開館式	42
東京市立日比谷図書館開館式	43
「小松原訓令」発令	45
第2章 大正期大正デモクラシーと関東大震災	47
年表 1912年(大正元年)～1925年(大正14年)	48
写真と解説	55
山口県阿武郡萩町に明倫図書館開館	55
慶應義塾図書館開館式	56
デモの背後にある東京市立日比谷図書館	57
関東大震災	58
「治安維持法」公布	61
早稲田大学図書館竣工	62
第3章 昭和前期「昭和ファシズム」と戦争の時代	65
年表 1927年(昭和2年)～1944年(昭和19年)	66

写真と解説	83
市立函館図書館開館	83
東京帝国大学附属図書館竣工	84
帝国図書館第2期工事竣工	85
東京市立駿河台図書館開館	86
天理外国語学校附属天理図書館竣工	87
財団法人安城農業図書館開館	88
広島市立浅野図書館設立	89
満洲国立奉天図書館開館	90
京都帝国大学附属図書館火災	91
大阪ライトハウス会館(盲人会館)開館式	92
盧山図書館での蒋介石	93
第二次上海事変	94
第75帝国議会	95
富山県立図書館開館	96
東京帝国大学附属図書館で勉強する東大生	97
無料巡回文庫	98
東京市立日比谷図書館で行われた露天文庫	99
第4章 昭和後期戦災からの復興と図書館の躍進	101
年表 1945年(昭和20年)～1988年(昭和63年)	102
写真と解説	136
名古屋市の中心部に対する大規模空襲	136
CIE図書館開館	137
『米国教育使節団報告書』(第1次)公表	139
NDL開館	141
NDL支部東洋文庫・静嘉堂文庫設置	143
NDLの児童閲覧室廃止	144
PTA母親文庫、テストケース開始	145
長野県上田市立点字図書館設立	146
東京都台東区立松葉小学校	147
岩手県立図書館が美容院に文庫を設置	148
移動図書館みやま号を稼働開始	149

クローバー子供図書館	150
東京都足立区立図書館に移動図書館を開設	151
看読図書の整理・利用に関する研修	152
「学校図書館法」公布	153
新聞資料のマイクロ化	155
多摩少年院図書館	156
神奈川県立図書館設置	157
わいせつ文書容疑で『セクサス』押収	158
日比谷図書館新館開館	159
かつら文庫開設	160
声のライブラリー発足	161
移動図書館船「ひまわり」就航	162
NDL、新庁舎	163
日野市立図書館開館	165
大阪市立中央図書館で主婦の本棚展を開催	166
日比谷図書館、視覚障害者サービスを開始	167
財団法人大宅文庫設立	168
都立中央図書館開館	169
山梨県立図書館、一坪図書館 50 館設立	170
東京子ども図書館発足	171
筑波大学、BDS を導入	173
田無市立中央図書館開館	174
住民図書館開館	175
日野市立図書館、コンピュータ導入	176
入館時の利用者チェック廃止が問題に	177
愛知県立高校図書館で禁書事件	178
ふきのとう子ども図書館開館	180
NDL が全面改組	181
第 52 回 IFLA 東京大会	182
移動図書館しおかぜ号を派遣	183
『ちびくろサンボ』絶版・利用制限	184

第 5 章 平成・令和伝統から革新へ	187
年表 1989 年（平成元年）～ 2024 年（令和 6 年）	188
写真と解説	217
「なごや会」が発足	217
阪神・淡路大震災	218
兵庫県芦屋市立図書館が再開	220
「21 世紀の子どもの読書環境を考える」	221
広島市まんが図書館開館	222
携帯電話迷惑防止装置	223
国際子ども図書館開館	225
「子ども読書年」	226
せんだいメディアテーク開館	227
ブックスタート支援センター発足	228
NDL 関西館開館	229
岩手県立図書館開館	230
矢祭もったいない図書館	231
大阪府立国際児童文学館廃止	232
東日本大震災	233
武雄市図書館が開館	234
吉田家文書を岩手県立博物館に搬入	235
関東・東北豪雨、文化施設が被害	236
多賀城市立図書館が開館	237
高知県・高知市合築図書館計画	238
相次ぐ学校史の破損	239
平成 30 年 7 月豪雨（西日本豪雨）	240
新型コロナ、政府「緊急事態宣言」	241
石川県立図書館 金沢大学工学部跡地に新築移転	243
神奈川県立図書館の新本館が開館	245
能登半島地震	246
分野別索引	247
事項名索引	265

明治期 近代図書館の勃興

年表 1872年（明治5年）～1911年（明治44年）

1872年（明治5年）

- 4月28日 書籍館設立 ▶ 35参照
- 4月 集書会社の設立申請 村上勤兵衛らが京都府に「集書会社」の設立を申請。府が建設中の「集書院」が完成するまでの事業として設立を認可され、5月姉小路東洞院に開設。一般市民に有料で書物を貸し出し、閲覧に供した。9月、府が政府に集書院の開院を届け出、1873年5月正式に開院。集書院の運営は集書会社に委託され、日本初の民間経営の公共図書館が誕生した。だが利用者が少なく経営難に陥り、76年村上らは運営を府に返上。82年に閉鎖された。
- 8月 集書局設立 書籍商・河内屋喜兵衛が大阪で「集書局」を設立。
- 9月 横浜に新聞縦覧所開設 横浜市中の有志らによって、新聞縦覧所が開設された。

1873年（明治6年）

- 3月19日 博物館・書籍館・博物館・小石川薬園を併合 太政官は、文部省博物館・書籍館・文部省博物館・小石川薬園を太政官正院所管の博覧会事務局へ併合した。
- 5月15日 集書院開院 京都府が三条高倉西に創設した「集書院」

が正式に開院。京都府立図書館の前身で、一般開放図書館としては文部省の書籍館(1872年創設)に次ぎ、公立の公開図書館としては日本最初のもの。運営は村上勤兵衛らの集書会社に委託された。だが利用者が少なく経営難に陥り、76年集書会社は運営を府に返上。82年に閉鎖された。

- 8月 書籍館、浅草文庫に改称 7月に浅草御蔵前片町への移転を命じられた「書籍館」が浅草六番堀に仮役所を設け、8月「浅草文庫」と改称。

1874年（明治7年）

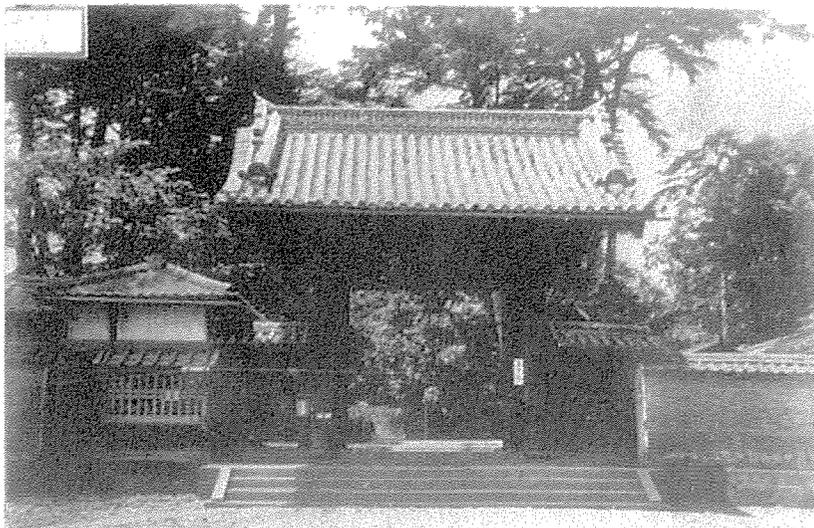
- 2月 八戸書籍縦覧所開設 旧藩士・逸見興長らが中心となり、青森県八戸町に八戸書籍縦覧所を創設。旧八戸城の物見櫓を買い取って堀端小学校(のち八戸小学校)の構内に移築し、書物仲間の蔵書に藩学校の蔵書を加えて開設された。これが青森県の公開図書館の嚆矢で、八戸市立図書館の前身。

1875年（明治8年）

- 5月17日 東京書籍館開館 1875年3月2日、文部省は旧来の文部省書籍館とは連続性を持たない新たな書籍館の創設を太政官に上申。13日、省内に所蔵していた蔵書(洋書約6000冊・和漢書約4000部)を湯島聖堂の大成殿に移し、書籍館の開館準備に着手。15日に中督学の畠山義成が館長に任ぜられ、4月8日書籍館を「東京書籍館」に改称。畠山館長が病で館務を離れ、30日九鬼隆一と辻新次が館長事務取扱となる。5月17日、東京書籍館が開館。文部省書籍館とは異なり、無料で公開された。8月2日、

写真と解説

◇書籍館（しょじゃくかん）設立



書籍館（しょじゃくかん）

1872年（明治5年）

1872年4月、文部省十一等出仕・市川清流が文部卿・大木喬任に「書籍院」設立の建白書を提出。同月29日の『東京日日新聞』63号で書籍院開設の旨が報道され、5月発行の『新聞雑誌』45号附録に全文が掲載された。建白書では学校設置の重要性や博覧会の開催について述べた後、一層の文化推進のため「書籍院」の建設が必要だと説いた。同時期に文部大丞・町田久成が大木文部卿に「博物館書籍館建設案」を提出。町田は大英博物館に倣い、動植物、古器旧物などを網羅的に展示する大博物館の建設を目指しており、書籍館はその一翼を担うものとして構想された。4月28日、大木文部卿の決裁を受けて文部省博物局の管轄下に「書籍館」が設立され、町田が館務を兼理した。東京・湯島聖堂の旧大学講堂を仮館とし、8月1日より有料で一般公開を開始。日本初の官立の公開図書館が誕生した。

平成・令和 伝統から革新へ

年表 1989年（平成元年）～2024年（令和6年）

1989年（平成元年）

9月 「なごや会」が発足 ▶ 217 参照

1990年（平成2年）

7月28日 山形県立図書館移転 山形県立図書館が、山形県山形市緑町の知事公舎跡地に建設された複合施設「遊学館」内に移転、開館した。遊学館は、「山形県生涯学習センター」「山形県立図書館」「山形県男女共同参画センター」で構成される。

1992年（平成4年）

5月 日図協、創立100周年記念式典を開催 日本図書館協会は創立100周年記念式典を開催した。白書『図書館はいま』を発表。また、日図協の歴史と日本の図書館界で生じた事象についてまとめた『近代日本図書館の歩み』（1992～93）を刊行した。

7月 『こんな治療法もある』絶版 作家遠藤周作の代替医療を紹介する対談集『こんな治療法もある』（1989年刊）が、同書内で紹介したアトピー性皮膚炎の治療法で治療を受けた読者から、副作用が出たとの苦情を受けた。版元の講談社は7月、同書を絶版するとともに、8月、全国の図書館に同書の閲覧・貸出の禁止を要請した。これに

対し「図書館問題研究会」は会長名で、閲覧及び貸出の禁止要請は国民の知る自由を侵害するものとして抗議した。

1993年（平成5年）

3月29日 学校図書館図書整備新5か年計画 文部省が「学校図書館図書標準」を制定し、「学校図書館図書整備新5か年計画」を発表する。学校規模別に標準蔵書数を定め、1993年度から97年度までの5年間に総額約500億円を交付税措置し、学校図書館の蔵書を1.5倍に増加させる内容。生徒の図書離れや活字離れを考慮し、魅力ある図書館をねらう。

12月9日 子どもと本の議員連盟発足 超党派国会議員による「子どもと本の議員連盟」が、「子どもと本の出会いの会」との連携・協力組織として発足した。初代会長に鳩山邦夫、事務局長に肥田美代子が就任。「〈学校図書館法〉の改正」と「子どもの本の館」（仮称）の設置を目指す。

1994年（平成6年）

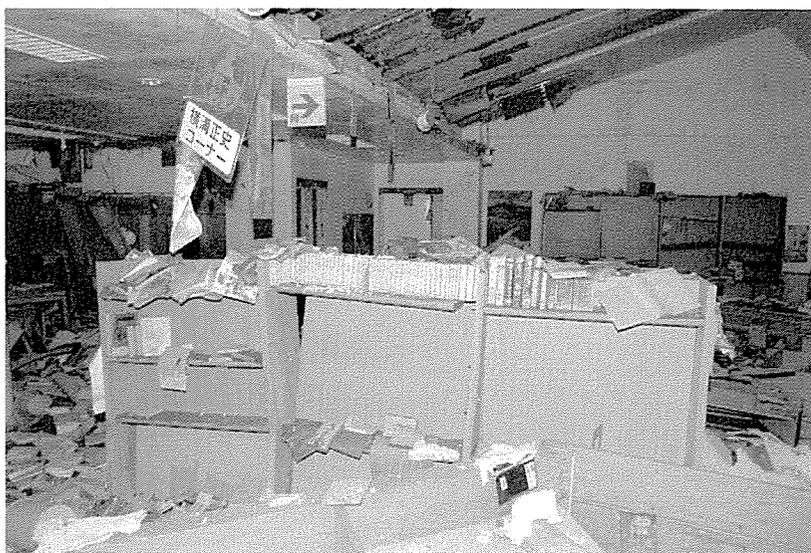
1月29日 NDL職員採用試験への点字・拡大文字導入の請願 国立国会図書館の障害者サービスを考える連絡会は、国立国会図書館の職員採用における点字・拡大文字等による試験の実施等に関する請願を出し、衆議院で採択された。6月29日、参議院で請願に対する附帯決議が可決された。これに対し、「国立国会図書館」は95年2月、視覚障害者の行える仕事がないと否定的な見解を示した。

6月 松本市立図書館の『みどりの刺青』貸出保留問題 松本市立図書館は1994年6月29日に発生した松本サリン事

◇平成30年7月豪雨（西日本豪雨）

2018年（平成30年）

2018年、梅雨前線や台風7号の影響で、6月28日から7月8日にかけて、西日本を中心に全国的に広い範囲で豪雨（平成30年7月豪雨）となった。日本図書館協会の調べによると、6日夜から7日朝にかけて、12.7万冊が水没した「倉敷市立真備図書館」、2階膝の高さまで水が浸水し1.7万冊が水没した「大洲市立図書館肱川分館」など7館で床上浸水の被害があったという。



豪雨によって館内に濁流が入り込み、書架が転倒して蔵書が散乱した
岡山県倉敷市立真備図書館の横溝正史コーナー

◇新型コロナ、政府「緊急事態宣言」

2020年（令和2年）

2020年4月7日～5月25日、新型コロナウイルスの感染拡大を受け、安倍晋三首相が「改正新型インフルエンザ等対策特別措置法」に基づく「緊急事態宣言」を発令。対象は東京、埼玉、千葉、神奈川、大阪、兵庫、福岡の7都府県で、期間は5月6日まで。宣言により、対象地域の都道府県知事は不要不急の外出の自粛要請、学校・保育所・映画館などの施設の使用やイベント開催の制限・停止の要請や指示が可能となるが、知事の権限の大半は強制力がなく、国民の自主的な協力を前提とする。4月16日、宣言の対象を全国に拡大。北海道、茨城、埼玉、千葉、東京、神奈川、石川、岐阜、愛知、京都、大阪、兵庫、福岡の13都道府県を「特定警戒都道府県」とした。5月4日、緊急事態宣言の期間を同月31日まで延長。14日を日処に専門家の分析をおおぎ、可能であれば期間満了を待たずに宣言を解除することとなった。14日、新規感染者が2週間前から減少傾向にあり、1週間の新規感染者が10万人当たり0.5人未満程度であること等を基準に、39県で緊急事態宣言を解除。対象は「特定警戒都道府県」のうち、茨城、石川、岐阜、愛知、福岡の5県と、それ以外の34県。続いて21日に大阪、京都、兵庫の3府県で宣言を解除。25日には北海道、東京、神奈川、埼玉、千葉の5都道県でも解除され、約1ヶ月半ぶりの全面解除となった。

分野別索引 目次

【全般】

政策	249
事件・災害	249

【図書館】

政策	249
法律・制度	250
専門職・資格	251
技術	252
会議・展覧会	253
沿革・活動	255
団体	261
事件・災害	262
その他	263

【全般 / 政策】

『米国教育使節団報告書』（第1次）公表	1946年4月7日
指定管理者制度はじまる	2003年6月13日
「新型コロナへの対応について」を公表	2020年2月21日
新型コロナ、政府「緊急事態宣言」	2020年4月7日～5月25日
「緊急事態宣言下の図書館の対応」を公表	2020年4月21日
「新型コロナ感染拡大予防ガイドライン」を公表	2020年5月14日
「新型コロナ時代の障害者サービス」策定	2020年6月13日
「新型コロナ感染防止対策」公表	2020年7月6日

【全般 / 事件・災害】

関東大震災	1923年9月1日
第二次上海事変	1937年9月16日
阪神・淡路大震災	1995年1月17日
東日本大震災	2011年3月11日
関東・東北豪雨、文化施設が被害	2015年9月
平成30年7月豪雨（西日本豪雨）	2018年7月5日

【図書館 / 政策】

博物館・書籍館・博物局・小石川薬園を併合	1873年3月19日
内務省、図書寮設置	1875年9月28日
「公立書籍館ノ設置ヲ要ス」発表	1877年12月
学事諮問会開催	1882年11月21日～12月15日
文部省に社会教育局設置	1929年7月1日
良書普及事業開始	1931年8月
国民教化運動の宣伝事項に「図書館記念日」選定	1937年9月18日
国民精神総動員文庫の費用交付	1938年9月16日
図書推薦調査会議設置	1938年9月
文部省、児童図書の推薦開始	1939年6月3日
「図書館事業の体制確立に関する請願」提出	1942年2月9日～10日

【あ】

愛国婦人会

婦人図書閲覧所開設 1905年1月

愛知県高等学校教職員組合

愛知県立高校図書館で禁書事件 1981年11月

青森県立青森盲学校

青森盲学校に点字図書文庫開設 1952年11月

青森県立弘前盲学校

青森盲学校に点字図書文庫開設 1952年11月

青山学院大学

山手線私大図コンソーシアム発足 2000年3月15日

赤坂離宮

NDL開館 1948年6月5日

秋岡 梧郎

図書館員教習所開設 1921年6月1日

第2回部会総合協議会 1943年5月21日～22日

秋田県立秋田図書館

秋田県立秋田図書館、巡回文庫開始 1902年10月

山口県立山口図書館、巡回書庫開始 1904年1月

佐野友三郎死去 1920年5月13日

秋田県立図書館

秋田公立書籍館設立 1879年10月

秋田公立書籍館

秋田公立書籍館設立 1879年10月

秋間 玖磨

関西文庫協会発会式 1900年2月4日

アクセシブルライブラリー

アクセシブルライブラリーを発表 2022年2月24日

編著者略歴

新藤 透（しんどう・とおる）

1978年埼玉県熊谷市生まれ。

2006年筑波大学大学院図書館情報メディア研究科博士後期課程修了。博士（学術）。

現在、國學院大学文学部教授。専攻は図書館情報学、歴史学（日本近世史）。

主要著作に『図書館の日本史』増補改訂版（勉誠社、2025）、『日本の図書館事始：日本における西洋図書館の受容』（三和書籍、2023）、『古代日本に於ける「図書館」の起源』（樹村房、2022）、『戦国の図書館』（東京堂出版、2020）、『図書館と江戸時代の人びと』（柏書房、2017）、『北海道戦国史と松前氏』（洋泉社歴史新書、2016）、『松前景広『新羅之記録』の史料的研究』（思文閣出版、2009）などがある。

写真にみる日本図書館史

2025年6月25日 第1刷発行

編著者／新藤透

発行者／山下浩

発行／日外アソシエーツ株式会社

〒140-0013 東京都品川区南大井6-16-16 鈴木ビル大森アネックス

電話 (03)3763-5241 (代表) FAX(03)3764-0845

URL <https://www.nichigai.co.jp/>

写真提供／毎日新聞社

印刷・製本／株式会社平河工業社

©SHINDOU Toru 2025

不許複製・禁無断転載

<落丁・乱丁本はお取り替えます>

ISBN978-4-8169-3059-1

Printed in Japan, 2025